

「エゾシカまるわかりキット」を用いた普及啓発活動 環境NGOカピウ

全国の農林業被害額の7割はエゾシカによるものです。北海道ではいち早くエゾシカの個体数増加と被害が顕著になりました。生息数および捕獲数が全国で最も多く、資源利用も進んでいます。しかし、エゾシカを管理する必要性や鹿肉等の資源利用について、市民への周知はまだ十分とは言えません。今後も引き続き対策を続けなくては生態系が維持できない点について、北海道内の共通認識を創りあげていくことが不可欠です。

そこで私たちは、エゾシカの生態、被害、対策、資源活用を体系立てて学べる「エゾシカまるわかりキット」を作成し、普及啓発活動を展開しています。これまでにエゾシカの角や毛皮、頭骨、痕跡などを教材として集約し、実際に利用を進めてきました。

今回、自然環境保全活動助成を受け、この教材キットをさらに充実させることができました。たとえば、エゾシカの特徴をより理解しやすくするには、他の動物との比較が効果的です。そこで、牛やトナカイの角、ウサギ、タヌキ、ネコの頭骨などを追加しました。これらの教材は、適宜ニスを塗ったり紙粘土で補強したりして強度を保つ工夫を施し、すべて手に触れられるように加工しています。また、エゾシカによる被害状況や被害対策を理解するために、電気柵やくくりわな、模擬銃、被害の実態がわかる被害木なども教材として取り入れました。さらには、教材の梱包や持ち運びのためにも強化を施し、遠方への運搬や貸し出しに対応できるようにしました。

この「エゾシカまるわかりキット」を利用した普及啓発活動も実践しました。札幌市立もみじ台中学校で計6回、札幌市の西岡公園、および釧路市立博物館で普及啓発イベントを開催しました。参加者には、シカの角を固定したヘルメットや、誕生時のシカやヒグマの大きさを再現したぬいぐるみなどを用いた解説を楽しんでもらいました。各イベントごとに、教材を用いた解説と、鹿角工作や鹿肉普及活動も組み合わせました。角を使った工作教室では、アクセサリーやペーパーナイフを作りを通して、シカの有効活用を解説しました。鹿肉の試食体験では、鹿肉の魅力や資源化の現状を紹介しました。また、本教材キットは、他団体が企画したイベント、たとえば全国から狩猟者が集る「狩猟サミット」や、(公社)札幌消費者協会主催の「エゾシカフェスタ in 札幌」でも活用されました。

本事業で教材が充実したことにより、エゾシカだけでなく他の野生生物種まで含めた生態系システムの理解が可能となりました。また、動物福祉に考慮しつつも、シカを獲ることから目を背けず資源化を視野に入れた管理のあり方を説明できるようになりました。イベントには子供たちも多く参加してくれましたが、こうした子供たちへの普及啓発が、未来

の野生動物管理の担い手育成にもつながると期待しています。今後も、多様な教材を用いた普及啓発活動により、シカを適正に管理することの重要性を広く周知していきたいと思
います。



